

どうぶつひろえんニコース



千葉市動物公園
Chiba Zoological Park

No.66

2007

冬

レッサーパンダの名前決定



今年も2頭生まれて、両方とも雌でした。

今年は、昨年一般公募した際に寄せられた候補名と千葉市のイメージなども含め、8つの候補名をあげました。

来園者に投票していただき、それぞれの投票数の多かった名前に決定しました。投票総数8,131票。

やはり、風太のイメージが強いのか、第3子は「風美」、第4子は「風鈴」に決まりました。

去年に引き続き、今年もレッサーパンダの風太に双子が生まれ、名前を投票により決定しました。

今年は、交尾が確認されていませんでしたので、産まれるか、期待はしていなかったのです。動物園にとって明るいニュースとなりました。

2匹の特徴をくらべてみると、「風美」の目は、パッチリしていて顔も風太に少し似ている感じです。「風鈴」は、目がちょっぴり細く、体毛は風太に似たのか、うすい茶色です。

動物公園管理課管理係

目次

CONTENTS

表紙【カヤネズミ】	①
トピックス【レッサーパンダの名前決定】	②
特集 子ども動物園より(11)	③
特集【動物園の環境エンリッチメント3】	④
サポーターズデイ【第1回サポーターズデイ】	⑤
動物公園の楽しみ方【もっとよく見たい!】	⑥
動物公園の植物③【キンモクセイ】	⑦
飼育よもやま話【ミニアキタツ】	⑧
動物公園日誌から【'07.7/1~'07.9/30】	⑨
裏表紙【フサホロホロチョウ】	⑩
サポーター会員募集のお知らせ	⑪
Information	⑫

表紙の動物説明 カヤネズミ

日本で一番小さいネズミで、頭胴長が50~80mm、尾長が60~90mm、体重が6~15gほどです。分布は、本州の太平洋側では福島県以南、日本海側では石川県以南、同一種は旧北区に広く分布しています。

低地の畑や水田、沼沢地、河川敷など水辺のイネ科植物の密生した草地の地上から1m位に、葉を編んで球形の鳥の巣に似た巣を作ります。巣材は、ススキ、チガヤ、エノコログサなどです。冬季には、地表の堆積物や地下に坑道を掘ってすごします。

イネ科植物の種子や草の実、昆虫を食しますが、飼育下では、穀類の種子、サツマイモ、煮干、バッタ類を食します。

寿命は短く、平均1.8~2年位です。生態上、物をつかむことが出来る尾を持っています。

小林 正典 (Masanori Kobayashi)

撮影: 宮川 千尋 (Chihiro Miyakawa)

動物飼育数

平成19年9月末現在の飼育数

Classified number of animals
as of 30.Sep.2007

哺乳類	66種	423点	両生類	1種	2点
鳥類	74種	324点	魚類	1種	2点
爬虫類	7種	31点	総計	149種	782点



子ども動物園より(11)



ただいまトレーニング中

ロバのお散歩



イソップ童話にはよく登場するロバですが、日本ではあまりなじみのない動物です。

でも、よく見ると、長くて大きな耳ときれいな目、白い口もとなど、魅力たっぷり。当園のロバは「小驢（しょうろ）」と呼ばれる、小さな品種です。背中と肩に黒い筋が十字に通っており、きれいなグレーの体毛がぐっと引き立ちます。

世界では約4千万頭が飼育されているのですが、日本では詳しい統計がありませんが、300～500頭といわれていますから、動物園で初めてご覧になる方も多いことでしょう。

当園のロバは、オスが「マツゴロウ」メスが「プラム」といい、2頭のあいだに生まれたメスの「カグヤ」がこの6月、川崎市の夢見ヶ崎動物園にお嫁に行きました。なんとも寂しい気もしますが、かわいがられて元気になっているとのこと。プラムが、マツゴロウとの間に次の子どもを産んでくれるのが楽しみです。

最近では、「ロバのお散歩」と称して、あまり混雑していない時間帯に、飼育係が子ども動物園の中を連れて歩いています。まだトレーニング中ですが、お客さんに触れていただくことにもだいぶ慣れてきました。

プラムからのお話を聞いてみましょう

ぜひ、顔や頭をなでて
ください。うしろに回られると
私、こわいんです。
おしりやしつぽは
さわらないでね。

私がお散歩にでかけると、
マツゴロウがよく鳴くんですよ。
なんともいえないすごい声なので、
お客さんはびっくり。
でも、私を呼んでいるので、
悪い気はしないけど。



このあいだは、
びっくりしたわ。
プタが面白いので近づい
たら、私の足にかみ
つこうとしたの。思わず逃げ
出してしまったんです。
ヤギは近づいてきてくれるけど、
ヒツジはあまり私のこと
好きじゃないみたい……。
でも、ときどきこうして
お散歩するのはいい
気分。



フクロテナガザルの放飼場をよくしたい! ③



前号までのあらまし。

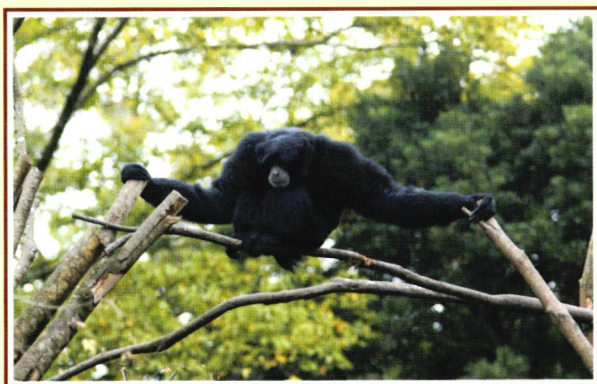
フクロテナガザル放飼場に樹を立て、ブランコ作りなどの改良に様々な工夫をしてきた前任者が担当替え。後任の担当は何をすることやら。

前任者と異なり、後任は横着者。そんな者が原稿の続きを書くことになろうとは。

良い放飼場とは? 動物→生き生きと活動する、来園者→活動する動物が見やすい、飼育係→動物が健康で繁殖するなど、立場によって微妙なずれがあります。このずれを調整するのが担当です。

まず担当になると、動物を見ることから始めます。この個体がどんな性格で、どういう行動をするのか。また、担当として(動物園として)来園者に何を見てもらい、何を知ってもらいたいのか。そのためには何をどうすればよいのかを考え、放飼場を見直します。

フクロテナガザルの魅力は、派手さでは、のど袋をふくらませた『ラウド・コール』と『ブラキエーション』です。ちょっと地味ではありますがマッチョな体型と絶妙なバランス感覚も魅力のひとつです。派手なパフォーマンスには展示場の広さがほしい。でも横は無理、ならば上に。すぐに樹高6mの樹を立て、前任者が立てた樹との間をロープで結びました。しかし、残念ながらあまり歓迎されませんでした。ロープは不安定(?)、樹は太く横枝がないため使いづらかったようです。



そこで、横木を取り付け、鉄パイプとつなぐことで登りやすくしました。その後、園内で伐採する大木の中から見栄えと使い勝手を考え、選んだ樹を2本立てました。どちらも最初の失敗を経験していたので、すぐに利用してもらえました。樹を立てる場所は、ブラキエーションの邪魔にならないようにし、また邪魔なものも撤去しました。これにより、樹から樹への移動、樹上とブラキエーションを伴った2種類のラウド・コー

ルが見られるようになりました。フクロテナガザルの声が聞こえてきたらお集まりください。ブラキエーションを伴ったラウド・コールは一見の価値あり。(来園者の拍手をいただいております。)この時、マッチョな体型や絶妙なバランス感覚にも目を向けてください。

この原稿を書いている間も、樹を数本立て、日々放飼場は変化しています。(月曜日が作業日のため、火曜日がおすすめ。動物が何をするか、担当でも想像がつきません。)

また、放飼場に手を入れるだけでなく繁殖を考え、人慣れしている雌の興味が雄に向くように、担当との接触は最低限にしています。



しかし、この努力にもかかわらず、動物園動物の悲しさか、地上でのとてもくつろいだ日光浴姿は見られ、夫婦仲にもあまり変化が見られません。

この整備や気遣いは、動物に良い結果が出て、はじめて動物にとって良い放飼場ができたといえます。担当の自己満足で終わってしまうのか。結論には、もうしばらく時間がかかりそうです。

伴野 修一 (Shuichi Banno)

おまけ
写真

フクロテナガザルは水は嫌いなのですが、水面に浮いている葉には興味があるみたいです。





サポーターズディ開催

第1回サポーターズディ

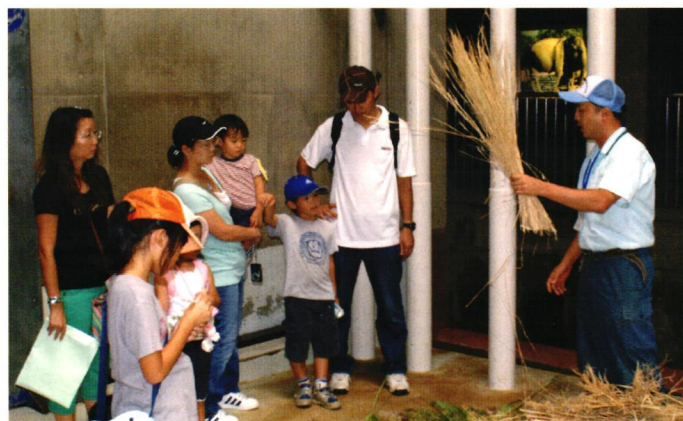
9月16日（日）まだ厳しい残暑の残る中、「第1回千葉市動物公園サポーターズディ」を開催しました。

サポーター会員とその家族の方々45名は、まず最初に動物科学館で開会行事に参加しました。その後、2班に分かれて普段見ることのできない動物舎のバックヤードと、エサの飼料庫の見学をしました。



子ども動物園でのエサ作り見学

子ども動物園ではエサ作り、マレーバク舎やキリン展示場では直接エサやりの体験をしたり、ゾウ舎では、飼育係員が大きなゾウを舎内まで誘導する様子を間近で見る経験をしました。



ゾウ舎でのエサの説明

参加者全員から好評をいただき、初めてのサポーターズディは、無事に終了いたしました。

サポーター制度は、本年4月1日より始まりました。目的は動物公園協会の設立趣旨である動物に関する知識と動物愛護の思想の普及の一環として、市民の方々と動物公園との対話や市民の方々と動物たちとの触れ合いにより、多くの方々に動物公園への親しみを持っていただくことです。今年度は、サポーター会員の御支援により、レッサーパンダ舎に動物説明板が完成しました。

今後も皆様に支えていただき、制度の充実が図れればと願っています。

動物公園協会教育普及係



動物公園の楽しみ方

もっとよく見たい！

皆さんは動物公園に来た時にどんな動物達をご覧になりたいでしょうか。お目当ての動物がいる時はその動物の前でじっくり見ていければいいのですが、普通の方はそんな訳にもいきません。だからと言って、ただ単に園内を回っても動物を見られるでしょうが、お昼寝中でいい動きをしてくれるとはかぎりません。

そこで、動物達のいい動きを見るにはちょっとした情報収集とコツが必要になります。動物達がよく活動するのは基本的に朝と夕方ですので、開園してすぐとか3時位からがお勧めですが、昼間でも見所がないわけではありません。

それは動物の食事の時間です。当園では入り口や動物科学館に一部の動物の食事時間（他の園ではモグモグタイムなど表示しています）が掲示されていますので、その時間より早めに見に行くのがいいでしょう。何故かと言いますと、動物達も食事の時間が分かるらしく、少し前からそわそわしたり、動き回ったりするからです。そして、園内で重そうなバケツやかごを持った飼育担当者を見かけたらついて行くのも一つの方法です。これから動物に食事を与えに行く途中かもしれません。

ゾウ・アシカ・キリンなどは食事時間（おやつ）が不定期ですので、園内放送でお知らせしています。しかし残念なことに、必ず毎日ある訳でもないのをご了承ください。

動物科学館の夜行性動物舎や小型サル舎などでは、動物達が連続して展示されていますので、1ヶ所で見られないとすぐ次に行ってしまうがちですが、ここではちょっと足をとめて5分、いえ、3分で結構ですから待ってみてください。動物達が隠れることのできる場所が作っており、動物達が隠れていることがあるからです。

ただ、ガラス越しの獣舎でご覧になる時はガラスを叩かないようにしましょう。動物は一瞬振り向きませんが、すぐ逃げていってしまいます。

さあ、動物達をもっとよく見てみましょう。

宮川 千尋 (Chihiro Miyakawa)





動物公園の植物…③①

The plants in the Zoological park

キンモクセイ【金木犀】

(O. fragrans var. aurantiacus)



モクセイ属モクセイ科の常緑広葉高木で、高さは4～6mほどです。中には10mに達する大きな木もあります。

葉は厚みがあり緑が濃く、とても光沢があり、花は濃い黄色で、枝の先端に小さな花がまとまって、10月上旬～中旬に咲きます。香りが強くキンモクセイを植えてない家の中まで匂います。

中国原産の木で萌芽力があり、成長はやや早く土質を選びませんが、密度の濃い土が好きなようです。

キンモクセイの仲間にギンモクセイ（白花）と、ウスギモクセイ（薄い黄色）がありますが、公園及び個人の家の庭に植えるのはキンモクセイが多いようです。

移植は容易で、刈込みにも耐えますので生垣に用いたりいろいろな形に刈込むことができるので、とても扱いやすい木です。

動物公園内には110本植栽してありますが、日向を好む木なので、園内の他の木の日陰になってしまったキンモクセイは成長が遅く花付が悪いので、少しずつ移植しています。

キンモクセイの匂う頃、とても楽しみにしていることがあります。それは、初苺（ハツタケ）・キノコが取れる時期を教えてくれることです。

染谷 正仁 (Masahito Someya)



飼育よもやま話

ミーアキャット

ミーアキャットは、南アフリカに生息する食肉目の動物です。社会性を持ち、一つのテリトリーに2～3家族が集まり、多くて30頭もの群れをつくって暮らしています。また、雄より雌のほうが社会的に優位であるといわれています。

ミーアキャットの放飼場には現在、両親とその子どもを合わせ8頭が暮らしています。過去4回の出産で、子どもが成長途中で死亡することがあったため、放飼場の問題点を解決していくことになりました。

まず、子どもがカラスに襲われたことから、カラスよけの釣り糸を全面に張りました。ミーアキャットは本来、サバンナなどの湿度が低く、乾燥した地域に生息しているのに対し、ここの放飼場は土の底部の排水性が悪化していることが考えられ、雨や台風で巣穴に水が溜まるなどして、子どもが犠牲になったのではないかと考えられました。そのため、シートで仮設の屋根を作り、巣穴に水が入らないようにして、子どもが無事に成長できるよう環境を整えました。その後、8月31日に生まれた子どもは、生後1ヶ月で馬肉等を食べ始め、無事に成長しています。

また、お客様にミーアキャットの体重を見てもらうため、高さ20cmほどの上皿はかりを用いた、手作りの体重計を設置しました。ミーアキャットは少し高いところに上って周りを警戒する習性があるため、これを利用して体重計に上がってもらおうとしたのです。案の上、最初はお父さんが



体重計に上がりました。

お父さんは雌より順位が低いいためか、いつも見張り役で、餌も最後に食べることが多いのです。コオロギなどの虫を与えた時もみんなが先に食べ、お父さんが辺りを警戒した後食べようとすると、ほとんど残っていないことも……。そんなお父さんですが、お母さんの出産前にはその準備のため、盛んに穴掘りをし、家族のために頑張っているのです。

水上 恭男 (Yasuo Mizukami)



動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

’07年7月1日～’07年9月30日

- 7月2日 レッサーパンダ、体重測定（風太：6.9kg、チチィ：7.85kg、ユウタ：6.87kg、風花：6.6kg）
 7月3日 イヌワシ（雌：展示）、右足跛行 指が曲がったまま開かない
 7月5日 チンパンジー、放飼場にサザンカを植える（今後徐々に植樹する）
 7月7日 ゴリラ、体重測定（モモタロウ：81.5kg） モモタロウ、頻繁に扉へ行きモンタにちょっかいを出す
 アシカ（雄：ドン）、朝、清掃時に威嚇し向かってくる



切る前



切った後

- 7月8日 モウコノウマ（雄）、尾のからんでいた部分を60cmほど切る
 マレーバク（ヤマト）、朝、トムの部屋の前でマーキングを繰り返して行い、展示場へ出ない
 7月10日 レッサーパンダ、屋内展示場を仕切り、チチィと風太を別に放飼する
 7月11日 レッサーパンダ（チチィ）、9：30頃一頭出産する 終日寝室にいる 17：00には子どもさらに一頭確認
 7月12日 オオカンガルー（ナミ）、育児嚢から子どもが顔を出す
 フラミンゴ類、ナベコウ工事のため馴化施設へ移動
 7月13日 カンムリバト（雄）、死亡
 7月14日 学芸員実習生2名受入れ
 7月17日 ワオキツネザル（No.19）、富山市ファミリーパークへ搬出（フリーディングローン）
 7月18日 レッサーパンダ、体重測定（風太：6.56kg、ユウタ：6.68kg、風花：6.45kg）
 7月21日 稲毛地区更生保護女性会（58名）、施設見学
 7月24日 ゴリラ（モモタロウ）、体重測定（84kg）
 レッサーパンダ、体重測定（風太：6.6kg、ユウタ：6.65kg、風花：6.4kg）
 7月25日 サマースクール（7月27日まで）
 マレーバク（雌、ユキミ）、午後より池に入りっぱなしで自分で立てなくなってしまう 平打ちロープ等で立たせ、収容する
 カオムラサキラングール、繁殖 朝は母親が抱いていたが、すぐに娘が取り上げ大半を娘が抱いていた 時々は母親に渡す様子
 カオムラサキラングール（仔）、朝、娘が抱いていたが衰弱している様子なので取り上げ、人工保育を試みるが自力で飲まず死亡
 レッサーパンダ、体重測定（風太：6.65kg、ユウタ：6.60kg、風花：6.37kg、風美：528g、風鈴：474g）
 7月31日 7月30日付で動物取扱業、特定動物の飼養許可がおりる
 8月1日 マレーバク（ユキミ）、7月25日以来、後足をつくの嫌がっていたがだいぶしっかり歩くようになる
 8月6日 フラミンゴ類・ナベコウ、展示場工事終了のため馴化施設より展示場へ移動
 8月8日 レッサーパンダ、体重測定（風太：6.6kg、ユウタ：6.65kg、風花：6.42kg）
 8月9日 ワタボウシパンシェ、2頭繁殖
 千葉そごう「キッズアカデミー」でタマゴの標本作りを行う
 8月12日 チンチラ、1頭繁殖
 8月19日 フタコブラクダ（雌）、死亡
 8月20日 レッサーパンダ、体重測定（風太：6.75kg、チチィ：6.55kg、ユウタ：6.70kg、風花：6.55kg、風美：1,004g、風鈴：940g）

8月23日

フンボルトペンギン（雛2羽）、他の個体がバットの餌を食べていない様子なので餌を補充する

8月24日

カンムリバト（雌）、死亡

8月25日

Zooキッズデー

8月26日

コシジロヤマドリ（雄）、死亡

8月28日

マンドリル、雄が雌に1m位まで走りよる威嚇が見られた 雌はプレゼンテーションで応じていたが身体的接触は見られずクロザル、交尾

9月2日



9月3日

マンドリル・フサオマキザル、ガスボンベの缶を工夫し中に小麦を入れつるす マンドリルは揺らすのみ、フサオマキザルは両手で持ってラッパ食いする

レッサーパンダ、体重測定（風太：6.82kg、チチィ：6.54kg、ユウタ：6.92kg、風花：6.64kg、風美：1,220g、風鈴：1,120g）

アメリカビバー、ペアリング 雌が雄を威嚇し寄せ付けられない

9月4日

フンボルトペンギン（雛2羽）、強制給餌を行う

9月9日

ワンポイントウォッチング（オジロワシ）

9月10日

マレーバク、雄（ヤマト）と雌（ユキミ）と一緒に放飼する

9月12日

キクユクロブス、交尾

9月15日

フンボルトペンギン（雛2羽）、手渡しでよく餌を食べる

9月16日

レッサーパンダ、体重測定（風太：6.82kg、チチィ：6.25kg、ユウタ：6.81kg、風花：6.71kg、風美：1,580g、風鈴：1,420g） チチィの体重が増えないため、給餌量を増やす

サボータースデー

9月17日

子ども動物園のウマ（3頭）・ロバ（2頭）、馬インフルエンザの予防接種

9月22日

ブラザグエノン、ミールワームを缶に入れ設置 雌は雄が気になり食べられない 雄は缶を警戒した後、落ちてきたミールワームを食べる

レッサーパンダ（風美）、チチィと巣箱の外に出ていた

9月23日

折り紙教室

9月25日

レッサーパンダ（チチィ親子）、公開準備のため旧獣舎へ移動

9月26日

関東東北ブロック動物園技術者研究会へ飼育職員1名出席

9月30日

ミニアキアット、仔2頭が遊んでいてモートに落ちる 1頭はすぐに上がるが、もう1頭はパニックになるが5分程度で自力で上がる

ワンポイントウォッチング（リクガメ）

※ レッサーパンダの子どもの名前は、平成19年11月3日に決定しました。日誌が記入された時点では名前は無く、個体番号で表記してありましたが、「飼育日誌より」ではわかりやすいように名前の表記としました

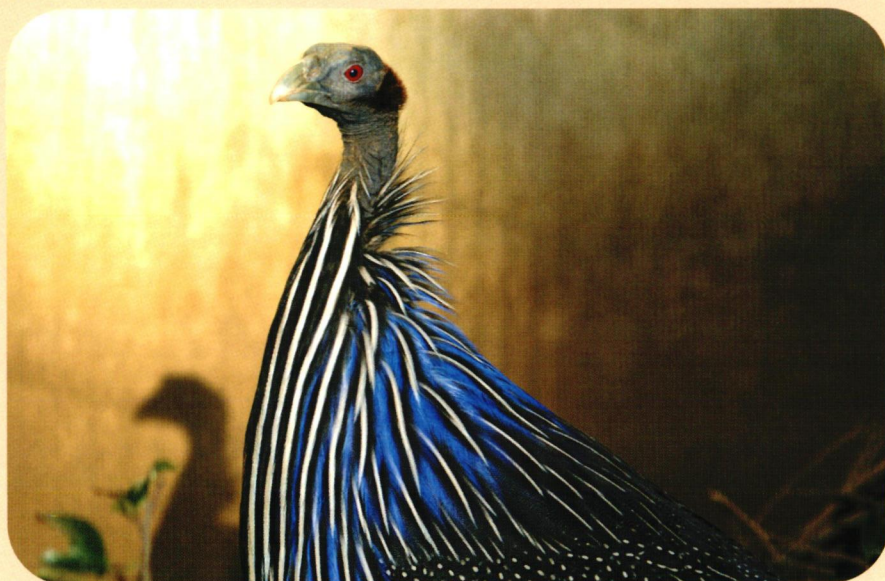
浅野 洋之（Hiroyuki Asano）

編集後記

今年は、開園以来人気者であったフタコブラクダ「クイ」が、永い眠りにつきました。一方、昨年に続き誕生したレッサーパンダの2匹のおかげでにぎやかなまま、まもなく新しい年を迎えようとしています。

これからは寒さに向かいますが、動物の中にはこの寒さが大好きというものもいます。2月にはバードウォッチングも開催いたします。ご来園の皆様には、天候に左右されず楽しんでいただけるよう、動物科学館館内でのクラフト教室など実施しております。ぜひ、冬の動物公園もお楽しみください。

どうぶつこうえんニュース編集委員



フサホロホロチョウ



サポーター会員募集

(財)千葉市動物公園協会では、動物に関する知識と動物愛護の精神を普及することを目的に「サポーター会員」を募集いたします。

年会費（4月～翌年3月） 個人会員 **1,000**円（1□）

法人会員 **10,000**円（1□）

オリジナルグッズプレゼント♪ サポーターズデイに無料ご招待！

お問い合わせは ☎**043-252-1111**



Information

平成19年12月・平成20年1月・2月の

催し物一覧

- ★ 12月 1 日㊦ 紙芝居会
- ★ 12月 2 日㊦ ワンポイントウォッチング（ミニアキター）
- ★ 12月 9 日㊦ Zooキッズデー（要電話予約）
- ★ 12月 16 日㊦ クリスマスシアター
- ★ 1 月 2 日❄・3 日❄ 新春お年玉プレゼント
- ★ 2 月 3 日㊦ バードウォッチング（要電話予約）